

国文学専攻（修士課程）の3ポリシー

【教育の理念】

国文学専攻（修士課程）は1952年に、駒澤大学で最も早い専攻の一つとして開設され、これまでに200名を超える修士号取得者を送り出してきた。本専攻では、その伝統に則り、国文学に関する幅広い教養と専門分野の体系的な知識、それらを応用する技能、情報分析力と問題解決能力、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力を身に付け、国文学研究の発展に寄与し、その意義を社会に発信することのできる人材の育成を行うことを教育の理念とする。

修士課程では、国語学、古代前期（上代）文学、古代後期（中古）文学、中世文学、近世文学、近現代文学、漢文学と、伝統的な研究分野を幅広く指導する体制を整えている。この環境を活かし、高度な専門性を追求するのみならず、国文学を研究する上で不可欠な関連諸分野の学識をも身に付け、広い視野のもとに、先導者として個人の様々な能力および高度な専門知識を社会に発信する意欲を持った人材の育成を行うことを目指す。

【修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

国文学専攻修士課程は、教育の理念に基づいて定められた下記の3つの能力を身に付け、所定の期間在学し、国文学専攻が定める所定の単位を修め、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査および最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、学位を授与する。

国文学専攻は、「修士」の学位の質保証のため、カリキュラム・ポリシーを綿密に履行することを十分に意識してカリキュラムを構築し、学位の客観的な保証を行う。

(DP1) 専門分野の知識や技能の活用力

国語学・国文学・漢文学に関する専門的な知識と幅広い知見、豊かな読解力や表現力等の能力を身に付けている。その専門知識を活かし、教育機関等において、優れた先導者として活動することができる。また、国際交流が不可欠となった現代社会において、専門知識の修得を通じて日本文学・文化を深く理解し、その価値や意義を世に広く発信することができる。

(DP2) 情報分析、課題設定および問題解決能力

国語学・国文学・漢文学に関する基礎的な知識や先行研究を踏まえ、自ら主体的に課題を設定する力と、さらに高度で専門的な情報を収集・分析して適正に判断・思考しながら、問題解決までの道筋を論理的に展開できる実行力や新たな知見を見出す能力を兼ね備えている。

(DP3) コミュニケーション能力

論文作成や演習、研究発表等の場において、自らの研究課題や問題意識を他者に的確に伝えることができる。さらに他者と討論することによって、より知見を広め新たな課題を発見することができる。また、研究倫理を身に付け、適切な方法で世に広く研究成果を発信することができる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

国文学専攻修士課程では、「修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた3つの能力を養成するために、国語学・国文学・漢文学に関する高度な研究能力を有する人材を育成するための総合的、体系的な教育課程を提供する。さらに、その教育内容については常に自己点検・評価を行い、不断の改善に努める。

具体的には、課程を通じた学修成果として提出される学位論文について、その審査基準を明確にし、そこから得られた評価結果を基に、不断に教育内容の見直しを行い、改善を加える。

また、論文執筆や学会における口頭発表の場において論文盗用などの研究倫理に反する行為が行われないよう、カリキュラムの中で研究倫理に関する意識の醸成を図る。

教育内容、教育方法、評価については、下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 講義科目は、専門基礎力および学术研究の基礎を涵養し、理論的・実践的基盤を築くために開講する。
- 2) 演習科目は、専門領域・研究課題に応じて、修士論文の作成上必要とされる指導や議論を繰り返すことにより、具体的かつ綿密な研究指導を行う。
- 3) 1～2の集大成として提出される修士論文を完成させ、それについて、審査および口頭試問を実施する。

2. 教育方法

- 1) 講義科目では、基礎的な研究手法を体得し各人の研究能力を伸張すべく、少人数での個別・グループ形式での授業を行う。
- 2) 演習科目を中心とする、修士論文の作成指導においては、教員と学生との間で「学位授与の方針」および「学位論文審査基準」を共有し、密接なコミュニケーションを取りながら、論文の完成に向けて丁寧な指導を行う。
- 3) 国語学・国文学・漢文学における専門的な講義、演習科目を配置する。学習者がそれらの関連分野を組織的に履修することによって、自己の専門領域に留まることのない、幅広い知見と研究方法を修得できるような課程編成となっている。
- 4) 単位互換協定を結んだ他大学の講義を受講することも可能である。
- 5) 学生は「駒澤大学大学院国文学会」会員として、研究雑誌『論輯』の発行、「大学院秋季研究発表大会」の開催など、自主的な研究活動を行い、教員はそれをバックアップする。
- 6) 修士論文の審査は、主査1名と副査2名以上で構成される審査委員により、「学位論文審査基準」に則り厳格な審査がなされる。口頭試問においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力を身に付けていることを詳細に確認する。
- 7) 研究倫理教育は、一般的な内容についてはeラーニング等の方法で学び、国文学研究特有の研究倫理については、研究指導等を通じて指導することにより補完する。

3. 評価

修士課程では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から修了後までの成長を視野に入れ、科目履修・修士論文の達成度における学修成果の評価・測定を行う。

4. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている

授業科目等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	各科目等のねらい
講義科目	4	1・2	◎			国語学・国文学・漢文学分野の知識および情報収集・分析などの研究上必要な知識や手段について体系的に身に付ける。
演習科目	4	1・2	○	◎	○	個別の研究テーマに基づき、指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行い、修士論文作成に役立てる。
実習科目	該当科目なし。					
修士論文	—	—		◎	◎	2年間の学修の集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。
研究倫理教育	—	1	○	○	◎	研究者として求められる基本的な研究倫理を身に付け、意識して研究活動を行う。

【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

国文学専攻修士課程は、専門分野に関する学士課程レベルの基礎的知識を修得し、大学院入学後も主体的に研究に取り組む明確な目的意識と熱意を持った入学者を求める。国語学・国文学・漢文学の各分野において、幅広い教養と深い学識を身に付け、研究・教育を始めとした各分野で先導者として個々の能力および高度な専門知識を社会に発信する意欲を持った人材を求める。

こうしたことに対する理解を持った受験生を適正かつ公正に選抜するため、国文学専攻の特性に応じた入学者選抜を行う。

1. 求める学生像

- (AP1) 国語学・国文学・漢文学に関する知識や技能を幅広く修得し、大学院での学修に必要な読解力・分析力等の基礎学力を有している。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 国文学専攻で学んだ専門的知識や技能を社会に還元し、貢献しようとする強い意欲と明確な目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 国語学・国文学・漢文学に関わる対象について主体的に課題を設定し、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく根拠をもって論理展開することができる。〔思考力・判断力・表現力〕
- (AP4) 多様な他者の考えや価値観を尊重して協働しつつ、自らの考えを適切なツールを用いて発信する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

入学試験制度	選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学試験制度のねらい
一般入学試験	出願書類		◎	◎		学士課程レベルの基礎的な専門知識があると認められる者に対し、研究に必要な専門知識や語学力を重視した選抜を行う。筆記試験は記述式で行い、専門科目試験と外国語試験の2科目で実施される。面接試験では、専門知識と研究意欲の確認等を行う。
	筆記試験	◎		○	○	
	面接試験	◎	◎	○	○	
社会人特別入学試験	実施していない					

外国人留学生
入学試験

実施していない